

松江南高出身の落語家



級友の協力を得て、松江市で40年ぶりに落語会を開く笑生十八番さん

40年ぶりに 古里で口演

笑生十八番さん

級友 会場提供など協力

長い間のごぶさたでございました。かつて県立松江南高校の落語研究会・矢楽亭で活躍し、現在は北海道を中心に活動する松江市出身の落語家が、40年ぶりに古里で落語会を開く。会場提供やチケット販売など、高校の級友たちが協力して開く「なまら、だんだん落語会」。古里への感謝の気持ちを込めた。

落語会を開くのは笑生十八番（しょうせい・おはこ）さん（59）＝本名・原正。松江南高時代は小原正助の名で松江市民余芸大会にも出演するなど活躍。進学した北海道大学では落語研究会に所属し、ただけ家大志の名で芸を磨いた。

北大を卒業後、20年間余りサラリーマン生活を送っていたが、転勤命令を拒否して退社。札幌市内で花屋を営んだ。落語は趣味で続けていたが、

3年ほど前にパニック症候群の症状に苦しみ、治療の傍ら自分に適した職業を占ってもらったところ「落語家が最適」と出たという。

笑生十八番を名乗り、ホームページを立ち上げ落語を中心にした活動を続けるうちに仕事が来るようになり、札幌市内7カ所で開催を聞くほか、落語教室や企業の講習会での「口演」、地元F.M局で番組を持つまでに。11月に松江南高7期卒業生会が開かれるのに合わせ、同窓生の協力で落語会が実現した。笑生さんは「なまら」は北海道弁でとてもという意味。だんだんは出雲弁でありがとう。松江と北海道の

皆さん両方に感謝する落語会にしたい」と張り切っている。

「なまら、だんだん落語会」は11月12、14の両日午後7時から、松江市天神町の彩雲堂本店で。入場料は千円。問い合わせは彩雲堂、電話0852（21）2727。